

# じつきょう

## 商業教育資料 No. 123 通巻411号



### 商業科独自の探究学習モデルとは？ ～「悪の精神」の大切さ～



高崎商科大学准教授

高見 啓一  
(通称：悪の統領)

#### 1. 探究学習ブームは商業科が「覇権」を握る チャンス

「商業科の実践は世界を変えることができる」

筆者はそう強く信じて、研究を続けている。筆者が関わった探究実践でも、三重県立四日市商業高校では全国で苦境にあえぐ「地方百貨店」の改革に向けた提案を毎年行っており、岡山県立笠岡商業高校ではコロナワクチンの試薬に必要な「カプトガニ牧場」のプランを考案している。商業科の探究学習は、国・世界レベルの課題を解決できるのである。

日本政策金融公庫主催「全国高校生ビジネスプラングランプリ」においても毎年、商業科をはじめとする複数の実業高校が、日本有数の進学校と並んでファイナリスト（ベスト10）に並び立つ（笠岡商業も2021年に「審査員特別賞」に選ばれている）。つまり商業科では、進学校にも引けを取らない高いレベルの探究学習が行われており、生徒の家庭状況（収入等）や教育費を考えれば、進学校よりも「コスパ」のよい教育をしているといえる。



図表1 四日市商業高校による近鉄百貨店の活性化イベント

しかし、近年の学科統廃合に象徴されるように、商業科の価値は一般には十分に理解されておらず、現場でもその実力を十分に発揮できていないのが現状である。加えて近年では、「探究学習ブーム」ともいえる普通科改革によって、地域における課題解決学習が商業科以外でも行われるようになり、商業科の「お株（強み）」を奪われる危機が迫っている。

我が国の探究学習の現状を一言で表すと「混沌」の最中にある。詳しくは高見（2024, 2025）にまとめているが、探究学習のパターンが限定的な海外と比較して、我が国では多様な取り組みとパターンが

#### も く じ

商業科独自の探究学習モデルとは？	1	改訂教科書紹介	
会計分野における指導と評価の一体化	6	ビジネス基礎 新訂版	26
DXハイスクール取り組み事例紹介		ビジネス・コミュニケーション 新訂版	27
デジタル×ビジネス	10	新簿記 新訂版・高校簿記 新訂版	28
授業実践「ビジネス・マネジメント」	14	情報処理 新訂版・最新情報処理 新訂版	30
地域を沸かすデジタルマーケティング活動	18	みのる先生のお悩み相談 ～実教のデジタルで解決！～	32
科目「ネットワーク管理」の指導について	22		

みられ、教員の指導の困難さにつながっていることが指摘されている。そもそも、探究学習は確立された学習理論や枠組みをもっておらず、特に理科教育と社会科教育では探究学習の歴史的系譜が異なる。前者はスーパーサイエンスハイスクール（SSH）でイメージできるように、探究学習の提唱者である Schwab が示した学問研究的な傾向が強く、理数の教科教育とのつながりが強い。後者は Dewey の進歩主義教育・生活単元学習の影響を受けており、問題解決型学習や PBL を軸としている。

すなわち「探究学習」で求められる指導方法は教科によって異なるということであり、商業科においても独自の歴史的系譜を踏まえた検討が求められる。また、学問探究の一定の「型」がある自然科学と異なり、社会科学である商業科では指導方法が分散しやすい。そのため、高校商業科にふさわしい探究学習の「モデル化」を図ることが重要となる。

筆者も実務上、商業科の生徒が地域に入って何かを「体験するだけ」、「お手伝いするだけ」の実践（これはこれで意義はあるが、探究や解明がされるべき問いは設定されていない）を、「探究学習」として発表させる事例を見聞きすることが多い。一方で、社会課題解決などの素晴らしい探究成果を上げていても、理数系の探究学習の視点で評価・比較され、忸怩たる思いをした経験を持つ教員も多いのではないだろうか。商業科独自の探究学習モデルを示すことは、このような混乱を防ぐことにつながり、理論が未確立な探究学習の分野に対して、商業科が学術的にプレゼンスを示すことができる。

そこで本稿では、商業科に一定の蓄積があり、筆者の専門領域でもある「企業家教育」の知見から探究学習の実践上のポイントを述べる（紙幅の都合上、詳細や参考文献については、筆者の論文を参照いただきたい）。そのうえで、筆者の研究室（通称：悪の組織ゼミ）の探究実践を紹介する。

「探究学習ブームの今こそ、商業科が覇権を握るべし！」

## 2. 企業家教育による探究学習のモデル化

筆者は、全国の高校で進路指導講演を行っている

著名な教育ジャーナリスト、山内太地氏（一般社団法人大学イノベーション研究所所長）の講演を聞く機会を得た。講演後「高校生の探究学習に有効な教育モデルは何かありますか？」と尋ねたところ、「企業家教育がいいですね」と回答されていた（もちろん先方は筆者の専門分野を知らない）。商業や経営学を専門としない方々の間でも、企業家教育の存在は浸透しつつあるようだ。そこで本節では、商業科の探究学習のモデルとして企業家教育を用いる根拠および、筆者が研究を進めている企業家教育モデルを示し、探究学習を実践するうえでのポイントを述べる。

前提として「企業家教育」という用語について整理しておく必要がある。企業家教育には、狭義の「起業家教育」と広義の「企業家教育（アントレプレナーシップ教育）」があり、前者は起業の How to を学ぶ教育であり、後者は生徒のアントレプレナーシップとしての課題解決力や協働スキルを育成する教育である。ビジネスに限定されない社会課題解決などの探究学習に取り組む商業科の企業家教育では、後者の立場で論じていくことが適切である（高見, 2021）。

広義でとらえれば、商業科には企業家教育について一定の蓄積がある。そもそも商業科は歴史的に、地方における商人の子弟教育や、地域労働市場における人材供給を担ってきた。研究上も、商業科教育研究の学術組織である「商業教育学会」が発行する『商業教育論集』には、探究学習に関わる論文が 105 本あり、そのうち 34.29%（36 本）が起業や企業家教育に言及している。すなわち、企業家教育は商業科の歴史的系譜からみて、拠り所となる可能性が高い（高見, 2025）。

また政策上も、我が国の企業家教育は都市部の有名大学を中心に行われているが、我が国では分厚い起業無縁層（特に地方に多い）の解消や、起業阻害要因となる「スーパーマン的」な起業家像の解消が求められている。この視点からも、地方に遍在し、幅広い学力の生徒が学べる高校商業科は、企業家教育のインフラとして期待される（高見, 2022）。

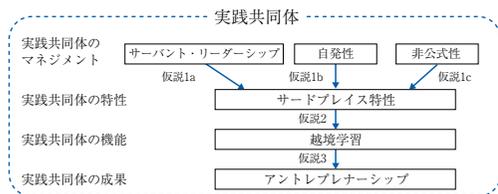
このように、商業科には企業家教育が期待されて

いるものの、実際の施策では「ゲスト講師（著名な起業家など）」の派遣が中心となっている。これはこれで一定の意義はあるが、高校のカリキュラムと合わないゲスト講義を1回入れたところで、現場には浸透しない。前述のとおり商業科にふさわしい教育モデルを実装することや、高校と継続的に関わる支援者の存在が求められる（ベネッセ教育総合研究所 Web サイト，東洋経済 Web サイト）。

そのため筆者は、商業科において企業家教育・探究学習が定着・成功するよう、3つの着眼点から教育モデルの研究を行い、支援者として現場でのモデル実装に関わってきた。以下、その結論のみ示すこととし、詳しくはそれぞれの研究を参照されたい。

1つ目の着眼点は、探究学習や企業家教育で必須となる「外部との連携」である。高見（2022）では「実践共同体」や「ソーシャル・キャピタル」などの概念を用いて、外部連携のコーディネーター役を担う教員に着眼し、先進校の事例研究（岐阜県立岐阜商業高校および三重県立飯南高校）を行った。インタビュー調査を通じて、連携先との互酬的なテーマ設定を行うことの重要性や、教員による人脈づくりの重要性などを明らかにしている。

2つ目の着眼点は、生徒を地域活動などに積極的に参加させるための「場づくり」である。高見・横山・宮崎（2024）では「サーバント・リーダーシップ」, 「サードプレイス」, 「越境学習」などの概念を用いて、全商協会加盟校への定量調査を行っている。重回帰分析の結果、教員の傾聴力や親近性、生徒の自発的な動機やラフな雰囲気、場の居心地を高め、多様な人々との間での活発な議論を促していた。その結果、生徒の試行錯誤（失敗や衝突も含む）が促され、生徒のアントレプレナーシップが高まることを明らかにしている（図表2）。



出所：高見・横山・宮崎（2024）

図表2 生徒のアントレプレナーシップを高める教育モデル

3つ目の着眼点は、生徒の自発的なテーマ設定を促すための「プログラム設計」である。自由研究のテーマを自身で決めた生徒の方が、学力が向上するというデータはあるものの、「テーマ設定」の指導は教員にとって一番難しいというデータもある。そこで高見（2024）では先行研究ならびに、三重県立松阪商業高校で行ったモデル実装を踏まえ、生徒主導でのテーマ設定を実現するためには、段階を重ねた経験の時間を確保することや、指導体制を確立していくことが重要であることを明らかにしている。

筆者が明らかにしてきたこれらの教育モデルを踏まえると、商業科において探究学習を成功させるには図表3のような点がポイントとなる。

商業科において探究学習を成功させるポイント
①教員自身が学校外部との人脈や互恵関係を作ること（組織はそのサポートを行う）。
②生徒を実社会の人々と関わらせ、自分たちで試行錯誤させること。
③生徒間でも対大人でも、遠慮なく話し合える居心地の良い場をつくること。
④親近性の高い教員が、ラフな雰囲気を醸成すること。
⑤生徒の自発性を最優先に、早期に様々な体験をさせていくこと。

出所：筆者作成

図表3 企業家教育モデルを踏まえた探究学習成功のポイント

この真逆を考える方がわかりやすいかもしれない。生徒が大人の答えを求めてしまう、冗談を言えるような雰囲気でない、生徒の自発的な動機が見えてこない・・・こういったケースは「〇〇大会で発表すること」が「義務」になっている場合などに起こりやすいのではなかろうか。こういったケースの場合、生徒にこう質問をするとたいい「ボロ」が出る。

「なんでそれをしたいと思ったの？」

### 3. 筆者の教育実践 ～悪の組織ゼミ～

本稿は学術論文ではなく、実践報告も交えられる貴重な場であるので、本節ではここまでの理論を踏まえた筆者のゼミ実践について紹介する。高崎商科大学高見研究室（3～4年ゼミナール）では「悪の組織」を名乗り、「私利私欲と企み力 ～商業高校で世界征服～」をテーマに、「①学生企画」と「②

商業科の支援」を主軸として行っている。

①は学生の「自発性（＝私利私欲）」で企画されており、麻雀、ゴルフ、バーベキュー、コンセプトカフェ、ハロウィンなど、大人から見ると「遊び」と思われるものばかり実施している。しかし、学生たちで企画・準備・実施まですべて行い、周囲に協力してもらえるよう説得することを基本方針としているため、「企み力」すなわち課題解決力および協働力が育成される。自分たちがやりたい企画を話し合うため、ゼミの時間は「教員そっちのけ」で話が盛り上がる。筆者がやるのは方向性の確認と時間の管理だけである。

②は、研究室を挙げて商業科の取り組みを支援し、世界を変える商業科を作っていこうという、本稿冒頭の精神（筆者の私利私欲）を反映した活動である。

2023年度に取り組んだ静岡県立伊豆伊東高校の探究学習支援では、高校生が考えたホテル業での「仕事体験イベント」に、大学生が興味を持つ「ゴルフ場体験」を加えていただき、ゴルフ好きの支配人とのトークも楽しませていただいた。もともとは人手不足の宿泊業への興味を持ってもらうために、ベッドメイキングなどの仕事を体験してもらうことがメインであったが、大学生の私利私欲を反映していただいたことで、宿泊業に明るいイメージを持つイベントとなった（伊豆伊東高校では2023年度以降、2年連続で全国高校生ビジネスプラングランプリのファイナリストに選出されている）。

2024年度に取り組んだ奈良県立商業高校の「進路室改革」は、同校の進路指導部からの、「生徒が利用したくなる進路室を大学生の発想で考えてほしい」というリクエストに応えたものである。私利私欲の精神を持つゼミ生は、「進路室ってまず行かないよね」、「床に座れるようにしてほしい」、「大学のパンフレットをデコっちゃおうよ!」と、大人に遠慮することなく、生徒の立場になって意見を投げる。進路部の先生方には多くの意見を汲んでいただき、ゼミ生がデコレーションしたパンフレットのほか、ソファが設置されるなど、生徒の入りやすい場に生まれ変わった（図表4）。



図表4 奈良県立商業高校 Web サイト

このような、大人に遠慮しない私利私欲に満ち溢れた豊かな経験は、学生の自発的な研究につながる。ゼミでは全員自分で卒業研究（論文）テーマを決めているが、テーマ設定に苦労した学生は皆無である。下記のテーマ例を見れば、その自発性（私利私欲ぶり）が伝わるだろう。

「悪の組織」ゼミの卒業研究テーマ例
「高校生が興味関心を持てる簿記教育とは」
「オンラインゲームでの重課金を防ぐには」
「麻雀愛好者の人口を増やすには」
「ハロウィン映画の人気の秘密について」

出所：筆者作成

図表5 「悪の組織」ゼミの卒業研究テーマの一例

麻雀やハロウィン映画の研究は、文化祭での「麻雀が遊べるコンセプトカフェ」や、学内での「映画祭&コスプレイベント」などの企画にもつながっており、多くの人を楽しませている。嬉しいことに、ビジネスコンテストで入賞する学生も多数輩出している（優勝を狙うのではなく、ただ楽しんで企画した結果である）。ゼミは「悪の組織」なので「社会貢献」、「地域貢献」といった言葉は使わないが、学生の私利私欲で行っている研究は、周囲の人々を（もちろん指導教員も）ワクワクさせるものとなる。自分が楽しくないものは、他の人も楽しめないのだ。

このような私利私欲の精神は高校生にもよい影響を与える。ゼミで探究学習の支援に入ったある高校の生徒が、地域の「廃校活用」についてアイデアを練っていた。高校生たちは「廃校でカラオケとか、高校生が遊べる場にしたいんですけど・・・」と、自信なさげに話すのである。自分たちのアイデアは大人によく思われないのではないか、と気が引けるのだろう。悪の組織のメンバーは、そんなことには

お構いなく「それいいじゃん!」,「校庭でバーベキューもできるよね!」,「コスプレイベントとかどう?」と私利私欲で乗っかるのである。実現した際には大学生たちも、友人を誘ってその廃校に遊びに行くことだろう(企画にも参加しそうな勢いであった)。これこそが真の「地域活性化」なのではないだろうか。

地域活性化などの文脈において「高校生の若い意見が欲しい」という声は、探究学習に関わる地域の大人からよく聞く言葉だが、率直な意見を言える「場」を作る責任は大人の側にある。悪の組織が探究学習支援に入った高校の先生方からは、「生徒たちが積極的に発言するようになった」、「学校外に出ていく回数が増えた」と良い反応をもらっている。ある高校では、話したいことが多すぎて、発表会で大幅に時間超過してしまった生徒もいたという。これには先生方も「以前は発表時間が5分あっても2分で終わってしまう生徒ばかりだったのに」と、嬉しい誤算だったようだ。これは大学生の力だけでなく、関わらせていただいた高校の先生方の「どうすれば生徒は自発的に探究するだろうか?」という「探究の姿勢」があってこそその成果だと考える。

探究学習とそうでない学習の「境目」はどこにあるのだろうか。私もその探究の最中にある一人だが、私利私欲の精神を持ったゼミ生たちは、高校生に対して純粹にこう言うのである。これが一つの答えかもしれない。

「自分たちがしたいことをやろうよ!」

#### 4. おわりに ～探究学習は悪の道で!～

最後に、探究学習や企業家教育を頑張っている先生に向けて、「悪の組織」から応援メッセージを送りたい。

そもそも探究心やアントレプレナーシップが豊富な人は、組織において浮きがちだ。周囲に流されず自分が好きなことを頑張れる人、組織外の知見や人脈をどんどん広げている人、古い慣習に対して「なんで?」、「どうかならないのか?」と疑問を持つ人、上司、部下や同僚の顔色を窺うよりも課題解決

のための行動を重視する人・・・このような先生は、心無い批判・陰口にさらされることも多いだろう(かつての私も日常茶飯事であった笑)。人に批判・陰口を言えるほど立派な方々は「正義」であり、そのような「自分こそ正しい(と思っている)」方々に、未知なる答えを探し求める探究学習(つまり拙稿)は不要なのだろう。

だからこそ、探究学習が必要だと考える先生方には「正義」ではなく「悪」のマインドを持ってほしい。批判&警戒されるということは、先生自身が理想(=私利私欲と野望!)に向かってまっすぐに行動している証明であり、そのためのイノベーション(=新兵器!)を生み出しているからなのだ。筆者(悪の統領)はそのような先生方と一緒に、これからも「商業科による世界の革新」をもくろみ続けたい。

筆者にとって探究とは

「野望を叶えるために、企み続けること」である

#### 参考文献

- 高見啓一.(2021). 商業高校におけるアントレプレナーシップ教育の分析視座: コミュニティ・オブ・プラクティスと越境学習. 關西大學商學論集, 65(4), 99-115.
- 高見啓一.(2022). 商業高校のアントレプレナーシップ教育における実践共同体の解明. 日本ベンチャー学会誌, 39, 63-77.
- 高見啓一.(2024). 探究学習における生徒主導のテーマ設定について: 三重県立松阪商業高校アントレプレナーシップ教育での実装の試み. 高崎商科大学紀要, 39, 53-63.
- 高見啓一.(2025). 商業科独自の探究学習研究に向けて: アントレプレナーシップ教育研究との接続の有効性. 商業教育論集, 35, in press.
- 高見啓一・横山恵子・宮崎慧.(2024). 実践共同体概念に基づく高校生のアントレプレナーシップ開発メカニズム: 商業高校の地域連携型アントレプレナーシップ教育の定量分析. 組織科学, 57(4), 5-20.

#### Web サイト

- ベネッセ教育総合研究所 Web サイト「高校の商業科におけるアントレプレナーシップ教育の研究と普及」  
[https://benesse.jp/berd/up\\_images/research/20231227\\_report\\_takami.pdf](https://benesse.jp/berd/up_images/research/20231227_report_takami.pdf) (2024年12月23日閲覧)
- 東洋経済 Web サイト「高校商業科でのアントレプレナーシップ教育, カギは『可能性に気付くこと』スーパースターでなくとも, 起業の裾野広げて」  
<https://toyokeizai.net/articles/-/788761> (2024年12月23日閲覧)

#### 筆者へのお問い合わせ

info@machi-rmc.com (教育実践上のお困りごとや、「悪の組織」への依頼など, お気軽に相談ください)